

■ 「かなめびと（組織運営コアスタッフ）」養成による組織基盤強化事業業【第1期】・申請団体一覧

団体名	所在地	事業名	事業概要
特定非営利活動法人エム・トゥ・エム	愛知県	基盤整備 改善強化事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全体を見ていただき、現在の管理の仕方について外部から見たご意見を伺いたい。</li> <li>・経理についての仕組みを見直したい。ひとりの担当者から、事業ごとの会計担当を決め、それらがまとまっていく形がとれるといい。</li> <li>・決済の仕組みがないので作りたい。(現在は理事会承認となっている)</li> <li>・以上のようなことから 組織運営を整理し整備していきたい。</li> <li>・組織運営にに必要な決済のルール等を教えていただきたい。</li> </ul>
特定非営利活動法人フードバンク愛知	愛知県	フードバンク愛知『少し先の未来へ』向けの基盤強化	<p>組織運営上の課題と思われることがあり、次の2点を懸念事項と考えております。まず、優先されることは団体運営においてなくてはならない資金・人のことであります。寄付金や助成金に頼ることが多いですが、不安定な面を持ち合わせ、安定した資金源の確保を実施していかなければと考えます。また、続いて組織面での活性化です。常駐スタッフとボランティアでの運営をしており、他団体の組織運営をお聞きし弊団体運営への助言を頂きたいです。そのような中、現在、力を入れている事業・活動は個人支援、寄付品の拡充のためフードドライブであります。個人支援においては対象者をひとり親家庭・子育て家庭、対象エリアを東海3県とし希望者に無償で宅配しております。そして寄付品拡充のため、企業へのご案内・説明を行いフードドライブなどで集まった品を寄贈頂いております。このような活動も継続して行いますがマンパワー不足のため、業務効率化を進めていき、寄付品のデジタル化など業務改善していきたいです。これらの活動も含め、現状の人員ではオーバーワークになってきております。そのため、1人当たりの労働負担の平準化、役割の分担の見直しは急務と考えます。これらを見直すことにより、中長期的なビジョンの策定や資金調達戦略などの持続可能な組織運営を拡大していければと考えます。今回の伴走支援を受けることで課題改善としている事項の専門的な知識やスキルの取得のご指導・ご助言を頂きたく申請させていただきます。</p>
NPO法人ファミリーステーションRin	愛知県	法人事業継続のための中長期視点での組織基盤強化	<p>法人設立から20年が経ち、世代交代を考える時期に来ています。この20年間に「支援の循環」を目指してきたこともあり、次世代を担う理事やスタッフは揃ってきています。今回の支援を受け「法人の組織運営」に関する次世代の強化を図りたいと考えます。現在、課題に思っていることは以下のとおりです。</p> <p>①Rinの組織運営をどう進めると良いのか・・・内部・外部の状況に応じた組織運営の進め方について、見通しをもって進めることが難しい状態です。</p> <p>②事業の拡大の方法・・・事業運営の過程で見えてきた課題に応じて事業を拡大してきましたが、どこまで手を広げていいのか、また事業を広げた時に、内部の体制をどのように強化すればよいかの判断することが難しい状態です。</p> <p>③人材育成とスタッフの巻き込み方・・・スタッフは、奉仕の気持ちが高く、困っている人を何とかしたいという熱意があるものの、各事業単位で判断・検討する段階にとどまってしまう、法人全体としての視点を持つことが難しく、自らが関わっていない他の事業の理解や、新規事業を開拓することについての理解が進まないのが現状です。全てのスタッフの理解を進め、法人運営を中長期的に検討していくことについては、理事会主導の状態となっており、次世代がそこでどのような役割を果たしていくのが明確になっていない状態です。働きやすい職場環境を整え、キャリアアップの仕組みを充実させるよう整備しているところですが、その道のりの途中となっています。</p> <p>支援を受けることで一番期待したい変化は、Rinを継続させていくために次世代理事やスタッフが、法人の組織運営や事業運営において岐路に立たされた時、困った時、状況が変化した時に判断をする道筋や、判断基準となる軸足を持つことです。</p> <p>その上で、社会の状況の変化に応じつつも、中長期的視点で次世代が法人をどう運営していくかを見極めたいと考えます。</p>
特定非営利活動法人からし種	愛知県	運営体制と業務の組織化に向けた伴走支援	<p>ボランティア団体からスタートし14年が経過し、団体規模が大きくなったものの組織としての活動が頭打ちになりつつある。経験と技術を持つ理事長が中心となって現場レベルで即座に柔軟に活動出来るのは団体の強みであるが、反対に部署や職位が希薄となり、仕事が属人的になっている。当団体の特徴である生活困窮者支援についても、組織として重点的に発展させようと思っているが生活困窮者支援に関わる職員達の仕事量が多く難しくなっている。また、仕事のやり方や範囲もバラバラで興味のあることに没入する人もいれば、全体の穴埋めでアタフタしている人もいる状況がある。創設期の職員達の定年が近くなり、人の入れ替わりがある中で今後も組織として組織の目標とするところを実行出来るように組織基盤を強化したいと考えている。そのために外部の支援を受け、理想とする組織体制と役割の明確化、最低限度の規定やマニュアル・お金や物の管理についての社内ルールを整備したい。支援を受けることにより、組織体制が万全となり、活動する人が変わっていても組織として活動を継続することが出来る。さらに最低限度の規定やアニュアル・お金や物の管理についての社内ルールを整備することで、委託事業や助成金・補助金などを取得することが可能となると同時に、社内での業務が円滑に進むことが期待出来る。</p> <p>中央児相や西部児相、東部児相からの委託で児童若者との関りも少なくない。長いスパンで付き合っている。成人して結婚や離婚や出産もある。付き合い続けることがからし種の目標の一部になっている。隣人であり続けるためには、個人個人の頑張りに対応する状態から組織として対応出来るようになることが不可欠である。活動経費については今まで全てを法人からの持ち出しで行ってきたが、継続して関わり続けるために、安定した組織力と公的な委託事業や助成金を獲得する力が必要である。今回をその機会としたい。</p>